

生きよ！

「わたしがあなたのそばを通りかかったとき、あなたが自分の血の中でもがいているのを見て、血に染まっているあなたに、『生きよ。』と言い、血に染まっているあなたに、くり返して、『生きよ。』と言った。」

(エゼキエル書 16 章 6 節)

「まことに主は、イスラエルの家にこう仰せられる。『わたしを求めて生きよ。』」

(アモス書 5 章 4 節)

新しい年を迎えて、早くも二週間になろうとしています。もしかしたら、既に、新年の抱負や元旦の計の通りにはいかず、挫折感を味わっている方、生き辛さを感じている方がおられるかもしれません。そんなあなたに、私に、主なる神は上掲のみことばのように、「生きよ！」と語りかけられます。

「生きよ」とは、直接的には、「生きる」ことを諦めてはいけないということであり、ひいては、主体的に前を向いて生きなさいということであり、また、信仰者として神を求めて生きなさいということなのではないでしょうか？

最近、学園の礼拝でこんな言葉を耳にしました。「死んだクジラはどんなに大きくとも簡単に波に流されてしまう。しかし、生きているメダカはどんなに小さくとも流れに逆らって泳ぐことができる。」。・・・まさに、私たちは、身体的・肉体的にだけでなく、霊的・信仰的に「生きる」必要があるのではないのでしょうか？

ただ、そうは言いますが、時にとことん疲れ果て、流れに身を任せざるを得ないこともあるかと思えます。そんな時、私たちは「生きようとする」のではなく、むしろ「生かされている」ことを覚え、無理せずに神にこそ身をお委ねしようではありませんか？そうする時に、「生きよ！」とおっしゃる主が私たちを生かして下さいます。

信仰生活は“福音袋”!?

「そうしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。今日でも、『主の山には備えがある』と言い伝えられている。」

(創世記 22 章 14 節)

新聞のコラムに、最近の“福袋”の傾向が紹介されていました。なんと袋に中身を明示したり、透明な袋に商品を入れているものもあるそうです。外れを予想して買わない人への対策なのでしょうか？正直、それでは、“福袋”の醍醐味が失われてしまうように思うのですが・・・。また、同じコラムで「本の福袋」を実施している図書館があることも紹介されていました。偏らない様々な本と出会うようにという工夫だそうです。なるほどな～と思わされます。確かに、新年と言えば、やはり“福袋”。おそらく、それで人は新年の福を占っているのではないのでしょうか？

私たちキリスト者は、むしろ、新しい一年の信仰生活自体が“福袋”、いや“福音袋”のようなものではないでしょうか？何が入っているかは未だ分かりませんが、神様は私たちのために、沢山の福音、恵みを備えて下さっているのです。アッと驚くような嬉しいサプライズがあるかもしれませんし、一見、残念そうに見えて、後になって「あって良かった」というものがあるかもしれません。

何しろ神様は、サンタクロース以上に私たちの欲しいものをご存知であり、いや、欲しいもの以上に、むしろ、必要なものをこそご存知なのです。私たちはこの新しい一年、そんな神様の“福袋”、いや“福音袋”にこそ期待いたしましょう。

「主は、あなたのすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいやし、あなたのいのちを穴から贖い、あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、あなたの一生を良いもので満たされる。あなたの若さは、驚のように、新しくなる。」(詩篇 103 : 3~5)